

Tesla Future Market Lab | CCB2026

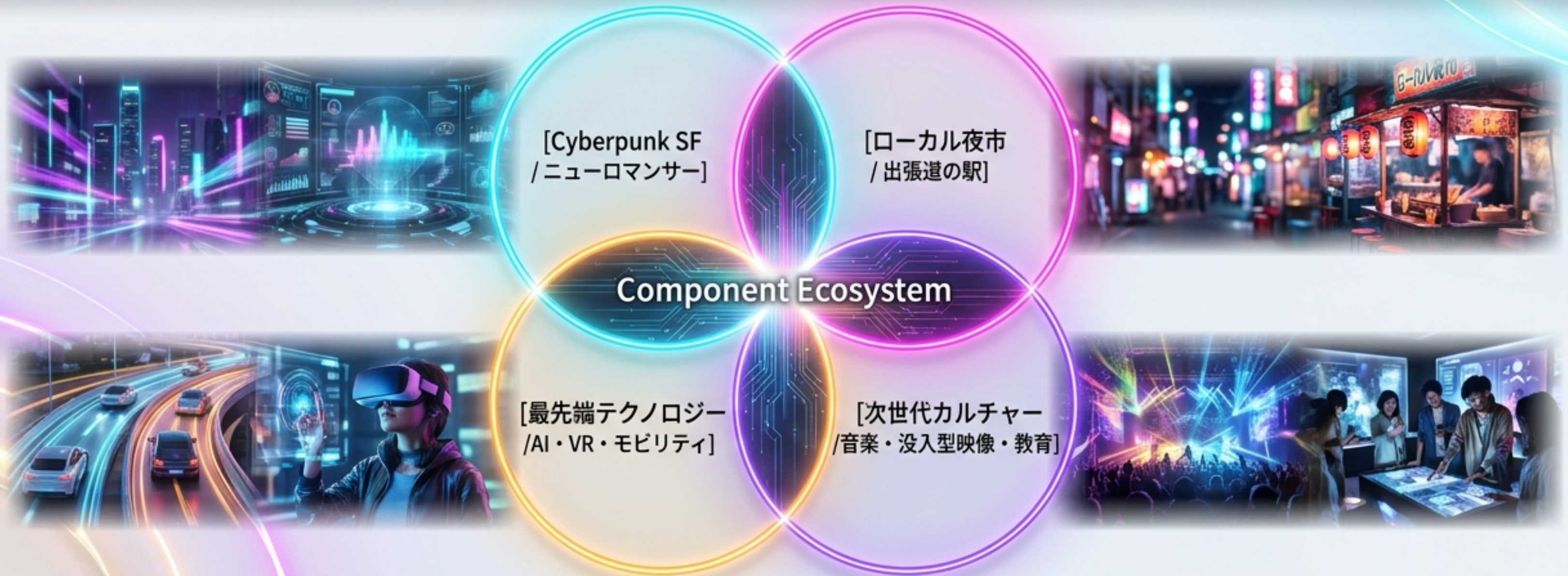
EV・AI・音楽・映像で、千葉市場を一夜限りの未来都市にする実証イベント

開催日程：11/28(土)・29日(日)※予定

舞台：千葉市地方卸売市場 —— 千葉開府900年に合わせ、
未来の移動と地域文化をつなぐ都市体験を創出

都市の記憶と未来が交差する、2日間の社会実験（PoC）

2026年、千葉開府900年という歴史的節目と、世界的SF小説『ニューロマンサー』（チバ・シティ）のドラマ化が重なるこの年。CCB2026は単なる集客フェスやマルシェではありません。千葉市地方卸売市場から稲毛エリアを舞台に、新しい都市のあり方を検証する「次世代の地域ハブを創出するための社会実験」です。



街そのものをインターフェースとし、昼から夜へ、現実から仮想空間へ、地域から世界へと広がる全く新しい体験を千葉から実装します。

市場の「空白の夜」に、 未来のインフラを プロトタイプする

なぜ幕張メッセのような展示会場ではなく、
生々しい市場なのか。



巨大なスケールと物流のハブ：普段は食と流通を支えるインフラ空間。その圧倒的な広さと構造は、モビリティやAIを実証する最高の舞台装置です。



「夜の余白」の活用：昼間の業務が終了した後の広大な「空白の夜」を、音楽、映像、灯り、そしてテクノロジーによって一夜限りの未来都市へと変換します。



最後の原風景：再整備事業が進行中の市場が持つ、長年千葉を支えてきた無骨で美しいインダストリアルな姿。ここを「未来の市場のプロトタイプ」として稼働させます。



移動の概念をアップデートする「未来モビリティの象徴」

私たちがTeslaをこの場にお招きしたい理由は、単なるファン心理や「カッコいい車を展示したい」という思いからではありません。

Teslaは、EV、AI、ソフトウェア、クリーンエネルギーを統合した「未来のモビリティの象徴」です。

車での移動を前提とした郊外の暮らしが、テクノロジーによってどう根本的にアップデートされ得るのか。CCB2026において、Teslaはただの展示物ではなく、地域の人々が「新しい未来のライフスタイル」を想像するための最も重要なゲートウェイとなります。

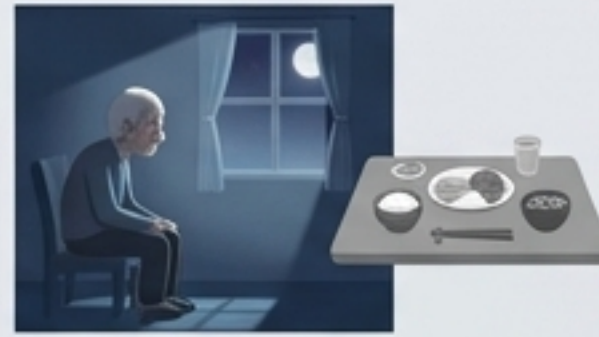
美浜区・埋立地エリアが直面する「一斉高齢化と移動の不安」

一斉入居（過去）



美浜区（高浜・磯辺など）の埋立地エリアに同世代が一斉に定住。

一斉高齢化（現在）



住民の高齢化が同時に進行。高齢者の一人暮らしが増加し、孤独死や孤食が深刻な地域課題に。

移動の不安（直面する危機）



郊外生活に車は必須だが、高齢者の運転継続には多大なリスクが伴う。家族が抱える「いつ自分の親が事故を起こしてしまうか」という切実な恐怖。

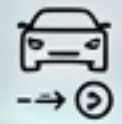
この問題は個人の努力だけでは解決できません。
だからこそ、最新の自動運転技術やEVがもたらす「安全で持続可能な移動の未来」を、
地域の中で直接考え、希望を感じられる場が必要です。

提案企画：Tesla Future Market Lab

車を展示するのではなく、未来の暮らしを体験し、考える場をつくる

展示・試乗

(Exhibition & Experience)



- Model Y / Model 3の車両展示と試乗体験



- シームレスなTeslaアプリの操作体験



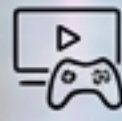
- 災害時のEV電源活用（V2L/防災インフラとしての価値）のデモンストラレーション

先進技術の紹介

(Technology & Safety)



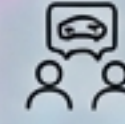
- ADAS（先進運転支援システム）による圧倒的な安全性能の解説



- 車内シアターモードやゲームを活用した「EVのある新しい居住空間」の体験

対話と交流

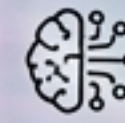
(Community & Dialogue)



- Teslaオーナー同士のミートアップ



- 「郊外のモビリティと高齢化」をテーマにしたトークセッション



- 地域の未来をアップデートする対話の創出

SFの世界を現実に引き寄せる「夢の拡張案」

実現可能性はご相談しながら慎重に検討したいですが、
本イベントの文脈を最大化する以下のような展開も夢見ています。



Cybertruck / Optimus 特別展
示：サイバーパンクの世界観（チ
パ・シティ）に最も合致するプロ
ダクトの降臨。



安全な条件下での先進機能デモ：
スマートサモン (Smart Summon)
やオートパイロット機能の未来
感あふれる紹介。



Tesla Night Diner Zone：
Tesla車両と地元の洗練されたキ
ッチンカー・夜市を融合させた、未
来型の休憩・飲食エリアの構築。



VR空間とのシンクロ：
現地に来られない子どもたちや世
界中のファンに向けた、VR会場で
の連動体験。

ディストピアではなく、人間中心の 「安全で開かれたプロトピア」

見た目はサイバーパンクや未来都市であっても、
私たちが目指すのは誰もが安心して参加できる
「改善され続ける未来（プロトピア）」です。



・ファミリー＆地域優先の設計: 昼間や早い時間帯は子どもや家族連れが安心して回遊できる導線と音量管理を徹底。



・厳格なゾーニング: 大人が楽しむ夜間エリアとの時間的・空間的な分離。アルコール提供エリアの厳密な管理。



・すべての子どもたちへ: 不登校やフリースクールに通う若者たちも、未来のテクノロジー（AI・EV・VR）に安全に触れ、居場所を見つけられる包摂的な環境づくり。

Teslaがこの地域実験に参画する3つの意義



地域接点の強化 (Local Synergy)

- 稲毛サービスセンターとの強力な地理的シナジー。
- 高浜・稲毛エリアの住民に対する直接的でポジティブなブランドプレゼンスの確立。



新たなブランド体験 (Brand Experience)

- 車好きだけでなく、ファミリー層、若者、地域のクリエイター層へ、音楽や夜市といった「文化」を通じてTeslaの思想を届ける機会。



社会的インパクト (Social PR)

- 「高齢化社会の移動課題に真摯に向き合う企業」としての高いPR効果。
- 未来都市の美しいビジュアルを通じた、圧倒的なSNSシェアと話題性の獲得。

千葉バージョンの未来に向けて、まずは30分の意見交換を

本企画は、現時点で直ちに金銭的な協賛（スポンサーシップ）をお願いするものではありません。
まずは「地域の未来モビリティ体験をどう作れるか」という共同企画のパートナーとして、
構想についての意見交換をお願いいたします。

1. Tesla Future Market Lab（車両展示・試乗・トーク）の実現可能性のブレスト
2. 稲毛サービスセンター様との連携、およびオーナーコミュニティとの接続の可能性
3. Tesla Japan内の適切なご担当者様とのリレーション構築



“The future is unevenly distributed. Let’s build the Chiba version together.”
— 千葉の伝説を、この市場から共に創りませんか。